

東京都台東区上野における産学官連携プロジェクトの活動報告

Activity Report for the Research Project Based on the Collaboration between Government, Industry and Academia in the Ueno District, Taito Ward, Tokyo

杉本 興運*・菊地 俊夫*

Koun Sugimoto

Toshio Kikuchi

摘 要

本稿では、2015 年秋から継続している東京都台東区の上野における産学官連携プロジェクト（上野プロジェクト）について報告する。首都大学東京都市環境学部観光科学科の地理学系教員が中心となって、これまでに歴史編纂、観光地マネジメント、教育・学習に関する 3 つの領域において複数のサブプロジェクトを実施してきた。2019 年には上野観光連盟創立 70 周年記念史の作成や記念祝賀会への参加を行った。約 4 年間のプロジェクトのあゆみを振り返り、成し得たことや課題を整理する。また、観光分野における地理学系研究者の社会貢献の方向性とその可能性を展望する。

1. プロジェクト概要

1.1 上野プロジェクトとは

大都市内部の観光地は、都市住民という巨大市場を背景に、その需要に対応することで安定した観光地経営の基盤を築いてきた。しかし、都市開発、競合地域の成長、住民の世帯交代や人口移動、流行、国際化の進展による訪日外国人増加などの諸要因による都市構造の変化に伴い、都市観光地としての様相や求められる魅力が刻々と変化し、様々な課題が浮上しているのもまた事実である。こうした現状をふまえ、首都大学東京都市環境学部観光科学科の菊地教授と杉本助教が所属する観光地域研究室では、東京都を代表する都市観光地である上野を事例に、今後の上野の再構築を進めるための戦略立案に必要な地域動態・観光動態に関する総合的研究プロジェクト（以下、上野プロジェクト）を、2015 年秋から実施してきた。本稿では、これまでの活動を振り返りつつ、上野観光連盟 70 周年記念祝賀会に参加した 2019 年の内容を中心に報告する。

およそ 4 年間のうちに実施してきたサブプロジェクトをまとめると、1) 上野の戦後以降の歴史をまとめ書籍化する「歴史編纂プロジェクト」、2) 訪問者の回遊行動調査や観光イベント評価といった「観光地マネジメントプロジェクト」、3) 大学生向けの日本文化体

験ツアーや観光資源学習などの「教育・学習プロジェクト」がある。これらを通して、上野観光連盟、上野のれん会、各文化施設、台東区役所などの様々な組織と協働したことから、名実ともに産学官連携といえるプロジェクトとなった。これまでに受託研究 4 件、共同研究 1 件、大学での授業 2 件を実施してきた。研究成果一覧は稿末にまとめて記載してある。

1.2 組織（2019 年 10 月時点）

<大学関係者>

- ・菊地俊夫（首都大教授：代表・渉外）
- ・杉本興運（首都大助教：内部統括・運営）
- ・ラナウィーラゲ・エランガ（首都大特任助教）
- ・太田慧（高崎経済大講師（元首都大特任助教））
- ・洪明真（首都大博士研究員）
- ・鈴木祥平（専修大助教（元首都大特任助教））
- ・矢ヶ崎太洋（首都大特任助教）
- ・その他、首都大を卒業した学生たち

<協同した上野の方々>

- ・土居利光（日本パンダ保護協会会長、首都大客員教授（元恩賜上野動物園園長））
- ・茅野雅弘（上野観光連盟事務総長）
- ・須賀光一（上野のれん会会長）
- ・その他、台東区役所、上野「文化の杜」新構想実行委員会、各文化施設、各町会・商店会の方々

*首都大学東京都市環境学部観光科学科
〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 (9 号館)
e-mail sugimoto@tmu.ac.jp

1.3 対象地

上野は東京都台東区の西部に位置し、浅草とともに台東区の広域総合拠点であるとともに、東京を代表する観光地として知られている。江戸時代から寛永寺を中心とした門前町として栄えていたが、明治時代には上野恩賜公園が日本初の公園として開かれたことをきっかけに、多くの博覧会や展示会などが催され、文明開化の発祥の地となった。その後、第二次世界大戦での東京大空襲による被害を受けたが、文化施設の集積した一等地であることを背景に娯楽機能や商業機能が発達し、現在では国内外から多くの人々が訪れる東京屈指の都市観光地となった。現在の上野は、博物館、美術館、東京藝術大学などの施設が集積し、国際的な芸術・文化の拠点となっている上野公園のあるエリアと、アメ横や上野中通り商店街など上野駅周辺に立地する複数の商店街で形成される商業集積地のエリアによって構成されている。現在の観光関連事業では、台東区役所、上野「文化の杜」新構想実行委員会、上野観光連盟などが中心となって、観光イベントの開催や訪日外国人受入体制の整備などを行なっている。上野公園エリアと商業集積エリアの間の回遊性向上が長年の課題となっており、上野まちづくりビジョンにて再開発を含めた人の流れの改善のための具体的な対策が、現在検討されている。

II. プロジェクトのあゆみ

2.1 歴史編纂プロジェクト

歴史編纂プロジェクト（表1）は、「昭和39年以降の上野地域の歴史の編纂」という上野観光連盟からの受託研究が基になっている。2015年秋に土居氏が発案し、首都大の菊地教授へ共同研究を働きかけたことがきっかけとなり、事業が開始された。このプロジェクトの目的は、上野の歴史および地域変容を調査し、その結果を書籍として出版することである。それにより、地域外の人々に国際的な都市観光地である上野のことを深く知ってもらうこと、地域内の人々に上野の将来像を考えるための基礎資料として役立てってもらうことを目指している。データ収集が主であった頃は、学生メンバーが多かったが、データ分析や執筆など専門的な作業が増えるにつれ博士号取得者を中心とした少数精鋭制のかたちをとることになった。江戸時代から平成時代までの歴史や地域変容に関するデータを網羅的に収集し、時代ごとあるいはテーマごとに担当者を決め、編纂を進めてきた。歴史資料や行政資料などの調

表1 歴史編纂プロジェクトのあゆみ

年月日	出来事
2015年9月	歴史編纂プロジェクトの開始
2015年10月	教員2名、学生8名の体制で活動組織を結成
2015年11月	キーパーソンへのヒアリング調査や文献調査などを開始
2016年5月27日	上野観光連盟総会にて2015年度の成果報告会を行う
2016年6月24日	台東区役所の研修会で研究成果の発表を行う
2017年12月12日	首都大学東京地域共創科学研究センターにて成果の一部を発表
2017年4月	教員4名、学生2名の少人数精鋭体制に変更
2018年8月27日	上野観光連盟事務所にて2016年度の成果報告会を行う
2018年9月	追加のヒアリング調査や文献調査を実施
2019年4～8月	記念史の作成
2019年9月11日	上野観光連盟創立70周年記念祝賀会にて記念史『未来への残像—上野観光連盟七十年のあゆみ—』を配布
2019年9月～	一般向け書籍を作成中

査とヒアリング調査が主な手段であり、資料分析では上野だけでなく、国、東京都、台東区を含むマルチスケールの視点から上野の地域変容とその要因を探ってきた。また、ヒアリング調査では、30名を超える上野のキーパーソンに対して1～2時間のインタビューを実施し、個々人の視点から上野での出来事や地域の変容を語ってもらった。これまでに書籍1件、報告書2件、学術論文3件を発表している。

2.2 観光地マネジメントプロジェクト

これまで上野の観光地マネジメントに関わる訪問客の調査研究を複数件実施してきた（表2）。まず、上野「文化の杜」新構想に基づき、2015年3月から上野にて芸術・文化をテーマとした観光イベントが毎年開催されることになったため、観光行動調査の専門家としてイベント評価事業に参画することとなった。基本的なアンケート調査に加え、GPSロガーやSNSデータなどを使った最新の調査手法を導入し、イベントを多角的に評価した。これらはアーツフェスタおよびUENO YESバルーンDAYSの評価に関する受託研究として実施された。次に、台東区都市計画課の依頼により、上野の山と街の一体化に資する都市空間の再構築に向けた「上野駅周辺歩行者回遊行動調査」を実施した。これまでに報告書3件、学術論文3件を発表した。学術論文については、イベント評価の論文が日本観光研究学会優秀論文賞を受賞し、回遊行動調査の論文が国際学術誌に掲載された。

表2 観光地マネジメントプロジェクトのあゆみ

年月日	出来事
2016年1月	「上野「文化の杜」アーツフェスタの評価」の受託研究が開始
2016年3月25～27日	アーツフェスタ開催，調査実施
2016年8月4日	上野「文化の杜」新構想実行委員会事務局にてアーツフェスタ評価の報告会開催
2017年12月12日	首都大学東京地域共創科学研究センターにて 2017年度の成果の一部を発表
2018年1月	「上野駅周辺歩行者回遊行動調査」の受託研究を開始
2018年2月	「利用者を考える会」への参加を開始
2018年4月20～22日	上野駅前・御徒町駅前で回遊行動調査の実施
2018年7月	回遊行動調査の成果発表（報告書提出のみ）
2018年10月	「UENO YES バルーン DAYS の評価」の受託研究を開始
2018年11月～2019年2月	バルーン DAYS 開催，調査実施
2019年3月	バルーン DAYS 評価の成果発表（報告書提出のみ）
2019年1月28日	首都大学東京地域共創科学研究センターにて 2018年度の成果の一部を発表

2.3 教育・学習プロジェクト

貴重な自然・文化資源が残り、かつ東京における芸術拠点である上野にて、首都大に通う大学生向けの教育・学習のプログラムを実施してきた。特に、須賀氏が代表を務める上野のれん会が主催する、留学生を対象とした日本文化体験ツアーは、毎回好評であった。これは歴史編纂プロジェクトでのヒアリング調査をきっかけに、須賀氏と杉本助教との間で話が進んだものである。後に首都大 AIMS プログラムの実習として採用され、エランが特任助教などが大学側の担当者となった。2015年より毎年開催され、魅力的な体験が提供されてきた。2019年9月26日のツアーでは、五條天神社を訪問し、日本人の宗教・神様に関する考え方、お祈りの方法、神社の役割などについて説明を受けた他、弓道体験、きもの鈴乃屋上野本店での着付け体験、上野下町資料館の見学が実施された。ただし、初回からツアーの内容は大きく変わっていない。

もう1つ、首都大客員教授を兼務する土居氏による「自然環境管理学」にて、上野での野外実習が毎年開催されてきた。これまで多くの首都大生が上野公園の文化施設、アメ横などの商業空間、寛永寺や五條天神社などでの資源管理や施設経営について学習した。毎回、授業内容は異なる。詳しい授業内容は表3にまとめて記載した。

表3 教育・学習プロジェクトのあゆみ

年月日	出来事
2015年10月16,26日	自然環境管理学にて上野での野外実習始まる（動物園での動物保全の講義，国際子ども図書館見学，アメ横の誕生の講義，上野の街ツアー）
2015年1月	上野のれん会主催の日本文化体験ツアーに首都大の留学生が参加
2016年11月17日	国立科学博物館でのラスコー展への招待を受け参加
2016年11月15,19日	自然環境管理学の開催（動物園の歴史の講義，上野のれん会の取り組み紹介，上野の街の探索ゲーム）
2017年9月	日本文化体験ツアーの実施
2017年11月18,28日	自然環境管理学の開催（上野・谷中の文化施設見学，伝統工芸体験，文化施設の課題の討論）
2018年9月	日本文化体験ツアーの実施
2018年11月20,27日	自然環境管理学の開催（寛永寺見学と徳川家に関する講義，歴史的建築物の見学ツアー，文化施設見学と回遊性の課題討論）
2019年9月26日	日本文化体験ツアーの実施
2019年11月28日	自然環境管理学の開催（国際子ども図書館，下町風俗資料館，アメ横センタービル，五條天神社の見学，アメ横商店街の観光の意義の討論）

Ⅲ. 2019年の主な活動

3.1 記念史の制作

歴史編纂プロジェクトの調査で得た様々なデータを元に、上野の歴史をまとめ、上野観光連盟 70 周年記念史にあたる書籍を制作した（図1）。タイトルは『未来への残像—上野観光連盟七十年のあゆみ—』、監修は土居氏である。書籍の主要部分であり「上野七十年のあゆみ」と題された、戦後から平成時代までの歴史の章の執筆に、杉本助教と矢ヶ崎特任助教が関わった。また、菊地教授の協力によりユニークな人物イラストの掲載も実現した。他には、上野観光連盟会長，東京公園緑地事務所所長，東京国立博物館館長，台東区長による寄稿や、上野に関わりの深いキーパーソンたちの思い出話が掲載されている。

記念史の歴史の章の内容について、簡潔に紹介する。第一章「戦後の焼け跡からの離陸」では、太平洋戦争での東京大空襲被害によって大きな被害を受けた上野が、いかに復興を遂げたのかについて、上野観光連盟の取り組みを中心に記述している。第二章「発展への道程」では、高度経済成長期に上野の街がどのような発展を遂げたのかを記述している。また、1965年の東京オリンピックや1982年の新幹線上野駅の開業といった大きな出来事に対する地域的な取り組みについてもふれている。第三章「平成の時代，新しい上野へ」で

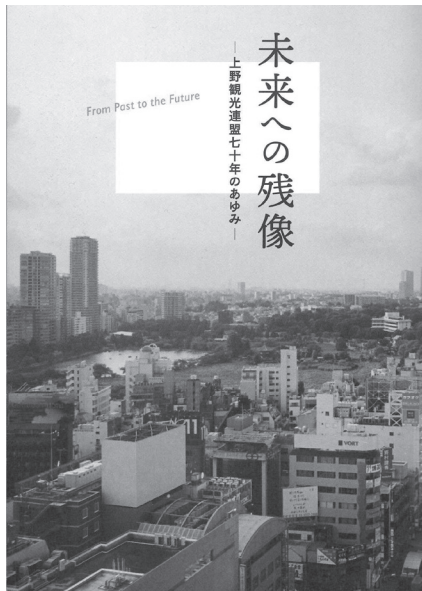


図 1. 記念史の表表紙

は、主にバブル崩壊後の平成不況から、令和時代の直前かつ 2020 年東京五輪を目前に活気づく 2019 年初頭までの上野の変化を記述している。進展するインバウンド観光への対応や、2020 年東京五輪後の上野の将来像についても紹介している。

3.2 記念祝賀会への参加

令和元年（2019 年）の 9 月 11 日、上野観光連盟創立 70 周年記念祝賀会が、池之端にある東天紅上野本社にて催された（図 2）。首都大を代表して、菊地教授、杉本助教、矢ヶ崎特任助教の 3 名が、祝賀会に参加した。来賓名簿には上野観光連盟の関係者を除いて約 250 名の記載があり、文化庁長官、東京都知事、台東区長をはじめとして、上野の文化施設や商店会および町会などの長、企業の取締役や部長など、上野にゆかりのある各界の要人の参加がみられた。祝賀会の記念品として、記念史が参加者全員に配布された。来賓紹介でのスピーチにて、数名から好評価のコメントをいただいた他、文化事業としての継続が期待された。

3.3 その他

記念史の内容を土台として、現在、一般向け書籍を制作中であり、2020 年度での発表を予定している。そのための追加調査として、2019 年 9 月～10 月に台東区観光振興課や上野ホテル旅館組合へのヒアリングを行った。また、「利用者を考える会」への参加を継続しており、ここで公表可能な内容を書籍の一部として採用することを検討している。



図 2. 記念祝賀会の様子

IV. プロジェクトの評価と展望

上野プロジェクトは、主に地理学やその隣接分野の研究者によって組織され、実施した事業の多くが地域変容や行動パターン探索といった現象分析に特化していた。このことから、観光地に生じる様々な現象の解明は、研究者側だけの関心ではなく、現実の社会的ニーズとして存在している。上野プロジェクトは、（著者の私見ではあるが）地理学の見方・考え方や調査手法に基づく地域研究が、観光地や観光産業に対してどのような貢献が可能なのか、という問いの答えを探す実験的事業という側面もあったが、いくつかの部分で研究の社会還元が十分に可能であることを示すことができた。地域の過去と現在をふまえずして将来像の提示はできないし、施策展開ではエビデンスに基づく意思決定が求められるため、地域調査や地域分析を得意とする地理学には、観光地のマネジメントでの施策立案に役立つ基礎的知見の提供といった部分において優位性を発揮できる。また、書籍制作や地域情報アーカイブ構築といった地域コンテンツに関わる商品開発も有望であろう。最近では地理学系の学会でアウトリーチという言葉が叫ばれるようになり、研究の社会還元を意識する研究者が多くなってきたという印象があるが、そうした流れにおいて上野プロジェクトは波及可能性のあるいくつかの有望なアプローチを提示できたのではないかと考えている。しかし分野の特性上、地域の空間デザインや制度の仕組みづくりといった工学的技術を必要とする仕事にはあまり向いていない。これに関しては工学分野の研究者との共同が必要であろうが、現実には様々な課題がある。

産学官連携の需要が高まるにつれ、地理学にはより一層の社会的役割が求められる。これは地域研究を主体とする他の学問分野にも通ずることだろう。観光と

いう枠組みにおいて、地理学の社会での活用を考えるとき、多角的な視点と様々な手法を用いて観光地の調査研究を担い、それに基づいた施策提言を行うことのできる人材や組織が求められている。これを考えたとき、純粋な地理的知識の追求や伝統的なフィールドワークへの傾倒だけでは応用に限界がある。様々な調査の方法論やデータ処理の技術に加え、分析結果を元に具体的な課題や解決策を提案するような応用的思考を身につけることが必要である。特に近年発展の著しいGISやGPSといったミクロな空間情報を扱うことのできるツールは、観光地の特性を把握するための基礎研究への利用だけでなく、評価や予測といった応用研究においても効果を発揮する重要なIT技術基盤となっていることから、その扱い方を優先的に身につけるべきであろう。

フィールドワークと空間情報処理の双方の技術習得は、個人や組織での研究の幅を大きく広げると同時に、社会での優位性を高めることにもつながる。上野プロジェクトでは、景観観察、ヒアリング、行政資料、歴史資料、統計データといった従来の手法に加え、GPSログやテレポイントデータなどのマイクロジオデータを使った新しい分析手法を試みており、その結果としてローカルな地域分析での有用性を確認した。また、SNSなどから取得できるボランティア地理情報も、訪問者の目線から地域を捉える上で有用である（例：地域に対するイメージや評価）。上野プロジェクトの一部であるイベント評価の調査では、Twitter ユーザの位置情報付きツイートを分析することで、上野公園でのイベント開催前後および開催期間中の盛り上がりや、アンケートでは把握できない本音などを把握することができた。最近では、観光地によっては訪問者の動態を継続的にモニタリングするためのWiFiセンサーの導入が進んでいる。もし上野での導入がなされれば、長期的な人の流れを捉えることが可能となり、イベントの効果測定や混雑度の評価に役立つ。こうした先端IT機器を使った観光行動研究は、海外の応用地理学の学術誌ではすでに論文化され、その有用性が実証されていることから、日本でも導入や活用に関する調査研究などが今後より一層進められることが望ましい。

上野は観光政策や芸術・文化政策において国や都の先端を担う地域の1つであり、観光に関する地域研究の対象としても重要な位置付けにあると考えている。台東区は23区に先駆けて観光計画を策定した過去があり、今でもその重点地域である上野では、国際的な都市観光地に必要なハードやソフトの整備が進められ

てきた。2000年頃に観光が21世紀のリーディング産業と叫ばれ、2010年以降では日本再興のための戦略にもなったが、この時期に大きく進展した観光政策が、ローカルな地域へとどのように波及し、その結果として地域にどのような影響があったのかを知るための好事例となるかもしれない。また、国際化や外国人の地域への影響といったテーマにおいても、上野は研究対象地としてふさわしい地域であると考えている。最近のインバウンド観光の進展によって、上野に訪れる外国人観光客の数は増加しており、それらに対して個人や組織がどのように対応し、また地域がどのように変容していくのかを検討することは、学術的にも実学的にも意義がある。なぜなら、広く国際化に関するテーマは地理学をはじめとする地域研究では重要視されてきているし、外国人の地域への影響を知ることは中長期の施策評価や今後の地域戦略を考える上で重要となり得るからである。そうした意味において、上野という一地域の知見が、今後の国際社会における日本の地域政策のあり方を検討する上での手がかりを提示することにつながるかもしれない。

今後は、これまでの実績を元に、最先端のテーマや調査手法に焦点をあて、学術と実務の双方にとって有意義な研究調査を行い、それらの社会還元を継続していければと考えている。

研究成果一覧

<受託研究・共同研究>

昭和39年以降の上野地域の歴史の編纂（上野観光連盟より受託）

上野「文化の杜」アーツフェスタの評価（上野「文化の杜」新構想実行委員会より受託）

UENO YES バルーン DAYS の評価（上野「文化の杜」新構想実行委員会より受託）

上野駅周辺歩行者回遊行動調査（台東区役所より受託）

都市観光地における観光地マネジメントの課題解決と再構築に向けた地域・観光動態研究（東京大学空間情報科学センターとの共同）

<大学での授業>

留学生の日本文化体験プロジェクト（AIMS プログラムの一部、上野のれん会提供）

自然環境管理学（エコトッププログラムの一部、土居利光氏提供）

<書籍>

土居利光(監修)、杉本興運・矢ヶ崎太洋(分担執筆)、菊地俊夫(協力) (2019) 未来への残像—上野観光連盟七十年のあゆみ

一. 一般社団法人上野観光連盟.

<論文>

洪 明真・太田 慧・杉本 興運・菊地 俊夫 (2018) 江戸期の
上野地域における行楽空間—歴史地理学からのアプローチ
—. 観光科学研究, 11, pp.35-43.

홍명진 (2017) 일본 역사지리정보시스템(HGIS)의
연구현황과 활용에 관한 연구 - 일본 근세 시대
지역공간 복원방법을 사례로 -. 대한지리학회지, 52(6),
pp.845-861.

太田慧・杉本興運・菊地俊夫・土居利光 (2017) 東京・上野
地域における商業集積地の空間特性の分析. 観光科学研究,
10, pp.1-8.

杉本興運. (2017) イベント開催時における訪問者の目的地内
移動パターン—東京都・上野公園でのフェスティバルを事
例に—. 観光研究, 29(1), pp.17-28. (日本観光研究学会優秀論
文賞受賞)

杉本興運・太田慧・鈴木祥平. (2018) 持続可能な都市観光地
のマネジメントに向けた観光回遊行動の研究. 地理情報シ
ステム学会講演論文集, CD-ROM.

Sugimoto, K., Ota, K. and Suzuki, S. (2019) Visitor mobility and
spatial structure in a local urban tourism destination: GPS
tracking and network analysis. Sustainability, 11(3), 919.

<報告書>

首都大学東京 観光科学科. (2017) 昭和 39 年以降の上野地域
の歴史の編纂—2016 年度の成果報告—.

首都大学東京 観光科学科. (2016) 上野「文化の杜」アーツフ
ェスタの評価 報告書.

首都大学東京 観光科学科. (2018) 上野駅周辺歩行者回遊行
動調査 報告書.

首都大学東京 観光科学科. (2019) UENOYES パルーン DAYS
イベント評価 報告書.

<口頭・ポスター発表>

杉本興運・矢ヶ崎太洋. 都市観光地におけるインバウンド観
光の進展と地域変容. 2019 年日本地理学会秋季学術大会,
新潟 (新潟大学五十嵐キャンパス), 2019 年 10 月, 口頭発
表.

菊地俊夫・杉本興運. 東京・上野地域における観光地経営の
現状と課題. 2016 年日本地理学会春季学術大会, 東京 (早稲
田大学早稲田キャンパス), 2016 年 3 月, 口頭発表.

太田慧・杉本興運・菊地俊夫. 東京・上野地域における商業
集積地の土地利用と空間特性. 2016 年日本地理学会春季学
術大会, 東京 (早稲田大学早稲田キャンパス), 2016 年 3
月, 口頭発表.

洪明真・杉本興運・菊地俊夫. 江戸期の下谷地域における商
業活動と観光空間の復原—歴史 GIS による可視化を通じ

て—. 2016 年日本地理学会春季学術大会, 東京 (早稲田大学
早稲田キャンパス), 2016 年 3 月, 口頭発表.

菊地俊夫・杉本興運・太田慧・洪明真. 2015 年度上野プロジ
ェクト調査結果報告. 上野観光連盟総会, 東京 (台東区役
所), 2016 年 5 月, 口頭発表.

菊地俊夫・杉本興運・土居利光. 温故創新 UENO プロジェク
ト (計 4 件の発表). 台東区の地域特性に関する研修, 東京
(台東区役所), 2016 年 6 月, 口頭発表.

菊地俊夫・杉本興運・太田慧. 上野プロジェクト 2016 年度の
中間報告. 成果報告会, 上野 (上野観光連盟事務所), 2017
年 8 月, 口頭発表.

洪 明真・太田 慧・杉本興運・菊地俊夫. 明治期の上野地域
における景観変遷 —内国勸業博覧会の関わりから—. 2017
年日本地理学会秋季学術大会, 津 (三重大学), 2017 年 9 月,
口頭発表.

太田慧・杉本興運・菊地俊夫. 地域と連携した歴史・文化・
観光地経営の研究と実践—台東区上野地域における調査・
研究プロジェクトの可能性—. 地域共創科学研究センター
ネットワークミーティング 2017, 南大沢 (首都大学東京),
2017 年 12 月 12 日, 口頭発表.

杉本興運・鈴木祥平. 上野「文化の杜」アーツフェスタの評
価に関する調査結果報告. 成果報告会, 東京 (上野「文化の
杜」新構想実行委員会事務所), 2016 年 8 月, 口頭発表.

Sugimoto, K., Koike, T. and Kikuchi, T. Intra-region tourist
movement during a local event for tourists: A case study of a
cultural festival in the Ueno district of Tokyo. 11th
Japan-Korea-China Joint Conference on Geography, 11-14,
September 2016, Sapporo, Japan.

杉本興運. イベント開催時における観光者の地域内移動パタ
ーン—東京都・上野公園でのフェスティバルを事例に—.
2017 年日本地理学会春季学術大会, つくば (筑波大学つく
ばキャンパス), 2017 年 3 月, 口頭発表.

杉本興運・太田慧・鈴木祥平. 持続可能な都市観光地のマネ
ジメントに向けた観光回遊行動の研究. 地理情報システム
学会, 南大沢 (首都大学東京, 2018 年 10 月 20-21 日, ポス
ター発表.

太田慧・菊地俊夫. 地域と連携した観光回遊行動の研究と実
践—台東区上野地域における調査・研究プロジェクト—.
首都大学東京 地域共創科学研究センター 2018 年度報告
会, 2019 年 1 月 28 日, 口頭発表.

鈴木祥平・杉本興運. SNS データを用いたイベント評価の実
践 —上野公園でのアートイベントを事例に—. 首都大学東
京 地域共創科学研究センター 2018 年度報告会, 2019 年 1
月 28 日, 口頭発表.